



平成20年度予算について

市長施政方針

ただいま上程されました平成20年度山陽小野田市一般会計予算ほか諸案件の説明に入るに先立ち、平成20年度の施政方針並びに予算編成について、所信を述べたいと思います。

総合計画に掲げる「活力ある住みよさ創造都市」をめざします

本市は合併して3年間、合併前に策定した新市建設計画と、合併後の財源不足との著しい乖離かいりに悩まされつづけて参りましたが、昨年9月には「総合計画基本構想」を策定し、また、「行政改革大綱・アクションプラン」も発表し、「都市計画マスタープラン」の策定にも着手し、着実に新市建設の目標に向かって進む準備が整って参りました。もちろん経常一般財源が伸び悩み、積立基金も底をつく状況が続いています。しかし、市民憲章で示されたように、市民と行政が力を合わせ、総力を挙げれば必ず「活力ある住みよさ創造都市」は実現できるものと信じております。そのためにも簡素で効率的な行政システムを確立し、歳出の徹底した見直しによる抑制と重点化を進め、歳入面においては、未利用財産の売却等、自主財源の確保について積極的な方策を講じ、効率的で持続可能な財政運営への転換を図ることとしております。

「枠配分方式」を導入するなど、引き続き経常経費の抑制に努めました

平成20年度の予算編成につきましては、引き続き「改革予算」の断行という位置づけのもと、経常的経費については、新たに「枠配分方式」を導入し、予算の重点化と効率化

を図りました。職員給与については、定員管理や給与水準の適正化を図りながら、給料は引き続き5%減額、管理職手当は50%削減するなど、徹底して義務的経費を抑制しています。

厳選した事業への重点的かつ計画的な投資で「スリムで中身の濃い予算」を実現しました

投資的、政策的な臨時的経費については、計画性や緊急性等6つの項目について行政評価を行い、更に、まちづくりの4つの視点で選定した7つの重点戦略プロジェクトを考慮し、事業実施の優先度を判定し、予算措置しております。その結果、大型建設事業は中断できるものは中断し、国・県にお願いしているものも厳選しました。その分を安心安全のまちづくりや子育て支援、福祉、教育などに振り向け、更に、長年修繕できなかつた施設についてもできるだけ措置するように努めました。また、普通建設事業については、その財源を単に地方債に頼ることなく、計画的に公債費負担適正化との調和を図ることとしております。また、歳入につきましても、引き続き、基金活用の見直しに努めるなど、自主財源の確保に全力で取り組んで参ります。その結果、「スリムで中身の濃い予算」となりました。

今般の極めて厳しい財政状況を乗り切るため、知恵と工夫と意識改革により、財政の健全化を目指したコスト削減等を図り、「最少の経費で最大の効果が上がる」行財政運営に全力を挙げて取り組めますので、皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

3月市議会定例会の演説より抜粋